

継続的フォローアップ業務に関する最新情報の収集及び
かかりつけ薬剤師・薬局の業務に関する実態調査

所 属 東京薬科大学薬学部
研究代表者 益山 光一
分担研究者 北垣 邦彦
分担研究者 山田 哲也

研究要旨

これまでの先行的なフォローアップの取組みの実施事例について、公益社団法人日本薬剤師会が2020年7月に発表した「薬剤使用期間中の患者フォローアップの手引き（第1.0版）」におけるフォローアップの定義に当てはまる事例について整理するとともに、手引きをもとに薬局薬剤師がフォローアップ業務を実施する際、患者本位の質の高いフォローアップ業務が可能となるための、手引きの更新に向けた具体事例の収集フォーマットの検討、収集する事例について検討した。

併せて、『かかりつけ薬剤師・薬局の業務に関する調査』については、本年度はインターネットを主体としたプレアンケート調査を実施した。

A. 研究目的

医薬分業の進展、調剤機器の充実、患者の疾患状況や医療環境等の社会的な変化が著しい中で、令和元年12月に公布された薬機法等改正法においても、薬局や薬剤師の役割等についても大きな変革を求めている。本研究では、薬剤師が調剤時のみならず、患者の薬剤の服用期間を通じて実施している服薬状況の把握や薬学的知見に基づく指導など質の高い薬剤師業務についての明確化を行うことを目的とする。

具体的には、総括研究として、これまでの先行的なフォローアップの取組みの実施事例について、これまでの論文、厚生労働省委託事業での自治体でのモデル事業の再整理等を行うとともに、公益社団法人日本薬剤師会で2020年7月に発表した「薬剤使用期間中の患者フォローアップの手引き（第1.0版）」の更新に向けた具体事例の収集・掲載方法の検討に着手するとともに、薬剤師・薬局を対象とした、かかりつけ薬剤師・薬局の業務に関する実態調査も実施することとする。

また、分担研究において、フォローアップ効果の測定に資する事例調査や、病院と

薬局における連携事例について、薬局薬剤師の協力を得てその測定効果や検証を実施する。

また、海外での薬物療法を主体とした患者のケアに関する収集すべき情報やアドヒアランス等について最新の情報を収集し、今後の質の高い薬学管理とは何か及びその場合の評価指標は何かについても検討を行う。

以上の研究の実施により、全国でのかかりつけ薬剤師業務の実施状況の把握、さらには、薬剤師職能の発揮をエビデンスに基づく明確化、さらには海外の情報等も踏まえた質の高い薬学的管理内容及びその指標についてまとめることを目的とする。

なお、これらの研究の実施等に関しては、公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人日本保険薬局協会、一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会、一般社団法人日本病院薬剤師会から選出された委員及びアカデミア、患者団体からの委員にもオブザーバー参加してもらい親委員会を本研究班に設置し、研究内容と実際の現場ニーズや成果活用に直結した研究となるように実施する。

B. 研究方法

2019年12月に公布された薬機法等改正法において、薬剤師が調剤時のみならず、患者の薬剤の服用期間を通じて、服薬状況の把握や薬学的知見に基づく指導を行うことが求められた。そのため、このような取組（フォローアップ業務）を効果的に実施するため、公益社団法人日本薬剤師会では、2020年7月に「薬剤使用期間中の患者フォローアップの手引き（第1.0版）」（以下、「手引き」という。）を公表し、今後、その手引きを基にして、新たなフォローアップ業務の定着を図ることとした。

このような取組みに協調して、今後、患者本位の質の高いフォローアップ業務の実施に向けては、これまでの好事例を収集し、その好事例となったフォローアップを実施するための手法等について具体化することが求められることから、まず、薬局等で実施されている継続的フォローアップの事例収集及びかかりつけ薬剤師・薬局業務に関する実態調査を行う。

なお本調査研究を実施するにあたり、本研究班の親委員会（日本薬剤師会、日本保険薬局協会、日本チェーンドラッグストア協会、日本病院薬剤師会、帝京平成大学、認定NPO法人ささえあい医療人権センター、東京薬科大学から構成）で検討、確認をいただいた上で実施することとしている。

1. フォローアップ報告書フォーマット作成

令和2年度の事例収集に用いたフォーマット（別添1）の課題として以下の4点があげられた。それを受け、フォローアップ報告書フォーマットを本研究班の親委員会で検討し作成した。（別添2）

1) 患者基本情報

患者情報について、令和2年度は年齢、性別、把握している疾患及びその状況（原疾患、既往歴、合併症及び他科受診で加療中の疾患を含む）、かかりつけの有無、外来、その他の記載項目を設けていたが、よりきめ細やかなフォローアップ事例を収集するために、「薬剤服用歴の記載事項（平成30年度診療報酬改定）」を参考にしつつ親委員会での検討を

基に、かかりつけ薬剤師指導料（調剤報酬における算定）の有無、患者のアレルギー歴や副作用歴、薬学的管理に必要な生活像、併用薬（要指導医薬品、一般用医薬品、医薬部外品及び健康食品）、相互作用が認められる飲食物の摂取状況、服薬状況（残薬）、来局頻度、フォローアップ実施開始日、フォローアップ期間の項目を追加した。

2) 患者等への確認のタイミング

患者等へのフォローアップを実施するタイミングについては、令和2年度に収集した事例のうち、「患者の都合の良い日に設定した」という旨の記載が多かった。患者主体は基本ともいえるが、一方で服用薬剤の特性（定常状態になるまでの時間、副作用発現時期、新規薬剤の処方等）、患者の特性（理解度、アドヒアランス、生活像）等、薬剤師が薬学的知見に基づいて的確に判断したタイミングの理由を記載してもらうよう、項目に「（なぜそのタイミングにしたのか、使用薬剤の特性や患者像から判断した理由）」を追加した。

3) 患者等への確認事項

患者等への確認事項については自由記載であったため、令和2年度に収集した事例では、服薬状況の確認、体調変化の確認、副作用の確認、薬剤効果の確認、アドヒアランスの確認、手技の確認などの記入がみられたが、記入者によって記載内容が異なっていた。実際の患者とのやりとりでは確認を実施した事項でも、全てをフォーマットに記載するには手間がかかるため要点だけ書いていることが想定された。そこで、あらかじめ確認事項として箇条書きにしておきチェックを入れてもらう形式にすることで、薬剤師が取捨選択して必要と判断し確認を実施した項目がわかりやすくなるようにした。なお、箇条書きした項目については、手引きの5. 薬剤交付から次回来局までのフォローアップの実践（4）患者等への確認事項の例として挙げられていたものを参考に、本研究班の親委員会で検討を行い、以下の項目とすることにした。薬剤等の服薬状況（残薬の状況、服用しづらくないか、服用において不便なことはないか等）、副作用発現の有無、使用中の薬剤の効果、薬剤使用中の体調の変化、患者基

本情報の変化、併用薬や食品・嗜好品との相互作用による影響、生活機能への影響、生活の変化、使用中の薬剤に対する意識（先入観、不安感等）。さらに特記事項についてはその他（自由記載欄）を設けた。

4) 分析と評価及び結果と対応

分析と評価及び結果と対応の項目では、記入者によって書く内容、書く箇所が異なっていたため、あらかじめフォーマットで書く内容を指定する形式とした。

具体的には、分析と評価の項目ではフォローアップ前の体調、副作用の有無、服薬状況、使用薬剤の効果、他職種連携への貢献についてチェックを入れてもらい、フォローアップを実施した際の患者の状況を自由記述で記載してもらうこととした。

そして、結果と対応の項目で、患者の状態を確認して薬剤師がとった行動及びそれに対する結果と対応について自由記述で記載してもらい、フォローアップ後の患者の状態については箇条書きしてある項目にチェックを入れてもらうこととした。

2. 公益社団法人日本薬剤師会等の協力による事例の収集

日本薬剤師会、日本保険薬局協会、日本チェーンドラッグストア協会との調整により選定された薬局に対し、本研究班の親委員会の委員から事例収集の依頼をしていただき、研究班にて作成したフォローアップ報告書フォーマット（別添2）に記入してもらった。それを各協会経由でメールにて収集した。なお、個人情報取得していない。

3. かかりつけ薬剤師・薬局業務に関する調査

かかりつけ薬剤師・薬局業務に関する実態調査については、委託調査により、これまでに厚生労働省において実施した「かかりつけ薬剤師・薬局に関する調査」によるKPIの達成推移等について比較検討を行い、その内容を踏まえ、令和2年度にアンケートを実施するための調査項目を本研究班の親委員会で検討した。その結果アンケート調査票の内容は

1. 薬局の概要

2. 患者の服薬情報の一元的・継続的把握とそれに基づく薬学的管理・指導に関する事項
3. 24時間・在宅対応・オンライン服薬指導に関する事項
4. 地域の医療機関等との連携に関する事項
5. その他かかりつけ薬剤師・薬局全般に関する事項

の5つに分類して作成した。（別添3）

アンケート調査の対象者は日本薬剤師会との調整により選定された薬剤師とし、日本薬剤師会を通して調査依頼をした。調査対象者（回答者）にインターネットを通して調査フォームにアクセスしてもらい、web上で回答してもらった。なお、令和3年度はプレアンケート調査として長野県上田市、神奈川県綾瀬市・大和市、愛知県、富山県の地域に所在する薬局約200件を対象に実施した。調査期間は2022年2月下旬から3月上旬である。本アンケートの企画や実施については委託により実施した。

（倫理面への配慮）

本研究については、本学の倫理審査委員会の審査を受け承認を得た（承認番号；人医-2021-031）。

C. 研究結果

1. フォローアップ報告書フォーマット作成

令和3年度は作成したフォローアップ報告書フォーマット（別添2）を使用して事例を収集した。

その結果、「フォローアップの重点事項」「患者等への確認のタイミング」「フォローアップを実施した際の患者の状態」「評価」「患者の状況を確認して薬剤師がとった行動」「結果と対応」「フォローアップ後の患者の状況についての自由記載欄」と自由記述の欄が多かったため、記入者によって書く内容、場所がバラバラとなり統一が得られなかった。

それを受けて、更に改良版を作成した（別添4）。サマリー（要点）の項目を設け、当該事例が何の疾患のどのような患者にフォローアップを実施してどのように効果があっ

たか記載してもらうこととした。また、混在していた自由記述欄を時系列に配置することで記入しやすい形式に改良した。令和4年度では、この改良版の報告書フォーマット(別添4)を使用して新たな事例を収集する予定である。

2. 公益社団法人日本薬剤師会等の協力による事例の収集

令和3年度は30件の新規事例を収集した。令和2年度に収集した11件と合わせた41件について「第1回薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループ(令和4年2月14日)での発表にむけて分析を行った。

1) 患者の性別(n=41)

「男性」16名(39.0%)「女性」25名(61.0%)であった。

2) 患者の年代(n=41)

「80代」が14件(34.1%)と最も多かった。次いで「70代」が11件(26.8%)が多く、「10歳未満」「40代」「60代」がそれぞれ4件(9.8%)等であった。

3) フォローアップ期間(n=41)

「2か月間」が9件(22.0%)と最も多かった。次いで「1か月間」「その他」がそれぞれ7件(17.1%)等であった。

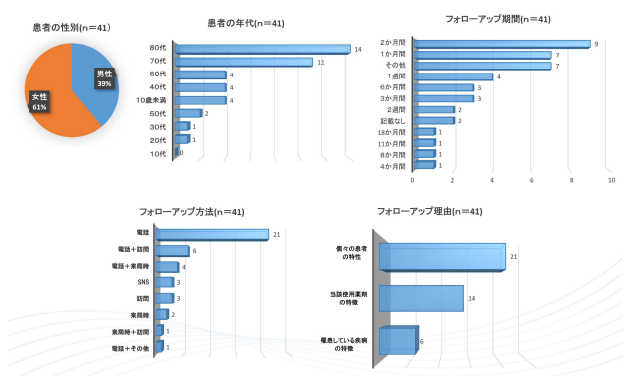
4) フォローアップ方法(n=41)

「電話」が21件(51.2%)と最も多かった。次いで「電話+訪問」が6件(14.6%)等であった。

4) フォローアップの理由(n=41)

「個々の患者の特性」が21件(51.2%)と最も多く、次いで「当該使用薬剤の特徴」14件(34.1%)「罹患している疾病の特徴」6件(14.6%)であった。

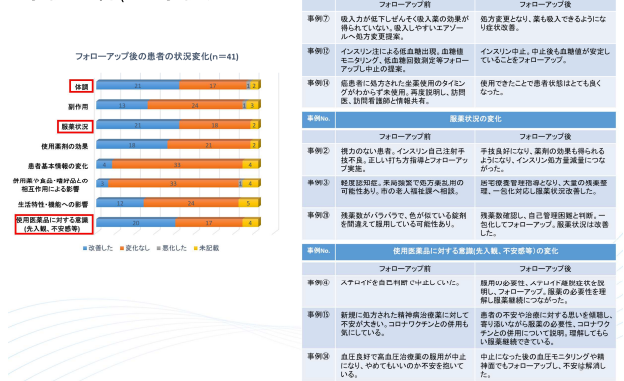
事例内容(41事例)



5) フォローアップ後の患者の状況変化(n=41)

フォローアップ後の患者の状況変化で「改善した」との記入が多かった項目は「体調」21件、「服薬状況」21件、「使用医薬品に対する意識(先入観、不安感等)」20件等であった。

事例内容(41事例)



6) 他職種連携への貢献(n=41)

「あり」は19件あり、具体的な内容として「医師」「訪問看護師」「ケアマネージャー」「市の老人福祉課」等が挙げられた。

7) トレーシングレポートの提出(n=41)

「提出した」は21件(51.2%)で「未提出」が19件(46.3%)等であった。

トレーシングレポートを提出したうち、処方量に変更されたものが5件、処方が削除されたものが3件、処方が追加されたものが3件、処方に変更されたものが2件あった。

トレーシングレポートは未提出であるが、そのうち「訪問薬剤管理指導報告書をケアマネージャー、医師に提出した」が1件、「病院薬剤部に抗がん剤副作用、症状、服薬状況、疼痛管理の方針について情報共有した」が1

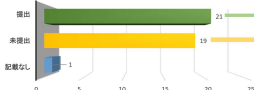
件、「電話で報告した」が1件あった。

事例内容(41事例)

他職種連携への貢献(n=41)



トレーシングレポートの提出(n=41)



トレーシングレポート提出後	件数	具体内容
処方変更	5	①インスリン減量②ロゼレハム減量 ③アルタス増量④クエチアピン減量 ⑤グラクティブ減量
記載なし	4	
処方削除	3	①抗癌薬・5α還元剤②インスリン ③サブリメント
処方追加	3	①ロベラド・ミヤBM②ボラフレジン クOD③ヒルディソフト教育
特に運営なし	3	
処方変更	2	①アドエアップルティフォーム ②クエチアピン・ロゼレハム
残薬調節実施処方箋発行	1	

トレーシングレポート未提出のうち3件
①訪問薬剤師指導報告書をケアマネジャー、医師へ提出した
②病院薬剤部に抗がん剤副作用、症状、服薬状況、疼痛管理の方針について情報共有した
③電話で報告した

8) フォローアップ効果が得られた事例

フォローアップ効果が得られた事例を「見出し」で整理したところ、以下の9つに振り分けられた。

1. 新規処方・処方変更時(増量・減量・中止)
2. 服薬アドヒアランス不良(自己判断で服用中止、残薬多数、認知症、自己判断で調節等)
3. ハイリスク薬処方時(がん化学療法、麻薬(疼痛管理)、その他ハイリスク薬)
4. 手技不良時(自己注射、吸入薬、坐薬、浣腸、点眼剤の溶解困難等)
5. 副作用等発現時(低血糖、ふらつき、下痢、低血圧、口内炎、手足症候群、嘔気、便秘、発熱、胃酸過多、遅発性ジスキネジア等)
6. ポリファーマシー、相互作用(サプリメント含む)
7. 服薬に関する不安(副作用)
8. 退院時処方(薬薬連携)
9. 処方提案(インスリン減量、止瀉薬、整腸薬追加、剤型変更、味覚異常に亜鉛製剤、オピオイド増量、副作用発現により減量等)

フォローアップ効果が得られた事例の「見出し」で整理

- ①新規処方・処方変更時(増量・減量・中止)
- ②服薬アドヒアランス不良(自己判断で服用中止、残薬多数、認知症、自己判断で調節等)
- ③ハイリスク薬処方時(がん化学療法、麻薬(疼痛管理)、その他ハイリスク薬)
- ④手技不良時(自己注射、吸入薬、坐薬、浣腸、点眼剤の溶解困難等)
- ⑤副作用等発現時(低血糖、ふらつき、下痢、低血圧、口内炎、手足症候群、嘔気、便秘、発熱、胃酸過多、遅発性ジスキネジア等)
- ⑥ポリファーマシー、相互作用(サプリメント含む)
- ⑦服薬に関する不安(副作用)
- ⑧退院時処方(薬薬連携)
- ⑨処方提案(インスリン減量、止瀉薬、整腸薬追加、剤型変更、味覚異常に亜鉛製剤、オピオイド増量、副作用発現により減量等)

令和4年度では、本学の倫理審査委員会の承認を得た後に、改良版報告書フォーマット(別添3)を使用して、さらに幅広い疾患や薬剤についての事例を収集する予定である。

3. かかりつけ薬剤師・薬局業務に関する調査

回答数104件であった。詳細な調査結果は別添5の通りである。

主な調査結果は以下の通りである。

1. 薬局の概要

問4 薬局の立地状況

回答のあった薬局の立地状況は「診療所の近隣」59件(56.7%)、「診療所の敷地内」2件(1.9%)、「病院の近隣」6件(5.8%)、「病院の敷地内」0件(0.0%)、「同一ビル内に複数の保健医療機関がある(医療モール)」1件(1.0%)、「同一ビル内に単一の保健医療機関がある」2件(1.9%)、「その他」34件(32.7%)であった。

問14 健康サポート薬局の届出

回答のあった薬局のうち、健康サポート薬局の届出を「している」のは10件(9.6%)、届出は「していないが今後届出予定あり」が47件(45.2%)、「していないが今後届出予定なし」が35件(33.7%)、「無回答」が12件(11.5%)であった。健康サポート薬局に係る研修を終了した薬剤師がいない理由として、「業務が忙しく、薬剤師が研修を受講する時間がないため」18件(56.3%)、「薬局として健康サポート薬局の基準を満たすことが困難なため」16件(50.0%)等があげられた。

2. 患者の服薬情報の一元的・継続的把握とそれに基づく薬学的管理・指導に関する事項

問16 入退院時における医療機関への情報提供

回答があった薬局の薬剤師が継続して担当している特定の患者について、当該患者が入退院した際の患者情報の授受を患者が入退院した医療機関との間で行っているか。

- ①入院時における医療機関への情報提供(複

数回答可)

「必要に応じて情報提供している」44件(52.4%)、「医療機関へ情報提供していない」24件(28.6%)、「患者の状態像に応じて情報提供している」16件(19.0%)、「入院する医療機関によって情報提供している」7件(8.3%)、「全ての患者について情報提供している」2件(2.4%)であった。

②退院時における医療機関からの情報把握(複数回答可)

「退院時における医療機関からの情報把握は行っていない」28件(33.3%)、「地域の医療機関の主導により患者情報の提供がなされている」27件(32.1%)、「都度、医療機関に患者情報の提供を依頼している」25件(29.8%)、「退院時カンファレンスに参加して患者情報を把握している」8件(9.5%)、「地域の医療機関との間で患者情報を提供してもらうよう取り決めを行っている」4件(4.8%)であった。

問 18 患者情報の継続的な把握方法

回答があった薬局での患者情報の継続的な把握方法としては(複数回答可)「患者が来局した時に、前回来局してからの服薬状況や体調の変化についてフォローアップを行っている」が78件(75.0%)、「患者に服薬指導をした後、電話等で連絡をするなど、フォローアップを行っている」47件(45.2%)、「患者の退院時に、入院していた医療機関から、患者情報を受け取っている」15件(14.4%)等があげられた。

また令和4年2月1日(火)において、診療報酬の算定を問わず、フォローアップを行った患者数(実人数)は17.2(平均値)、そのうち副作用を発見した患者数(実人数)は0.3(平均値)、残薬を発見した患者数(実人数)は1.3(平均値)、服薬に関する再指導を実施した患者数(実人数)は3.1(平均値)、得られた情報を処方医等にフィードバックした患者数(実人数)0.6(平均値)であった。

さらにフォローアップを行っている患者の主たる疾患については(複数回答可)、「糖尿病」54件(65.1%)、「がん」42件(50.6%)、「喘息」39件(47.0%)、「高血圧症」38件(45.8%)、「認知症」37件(44.6%)等があった。

問 19 電子版お薬手帳の導入

回答があった薬局で電子版お薬手帳を「導入している」は71件(68.3%)、「導入していない」は18件(17.3%)、「無回答」15件(14.4%)であった。導入していない理由(複数回答可)として「導入費用の負担が大きい」4件(22.2%)、「運用費用の負担が大きい」4件(22.2%)、「必要性を感じていない」4件(22.2%)、「希望する患者がいない」4件(22.2%)等があげられた。

電子版お薬手帳を使用することにより紙のお薬手帳と比べた際のメリット(複数回答可)としては、「メリットは特に感じていない」22件(21.2%)、「患者の同意のもと他職種に対して患者情報の提供を円滑に行えること」16件(15.4%)、「医療情報が電子化されることにより、患者の待ち時間が短縮されること」13件(12.5%)等があげられた。

問 21 薬歴管理の電子化

回答のあった薬局において薬歴管理の電子化を「行っている」は84件(80.8%)、「行っていない」5件(4.8%)、「無回答」15件(14.4%)であった。

電子薬歴システムを使用することにより紙の薬歴と比べた際のメリット(複数回答可)としては「体重、血糖値などのデータを経時的に把握しやすいこと」66件(63.5%)、「患者の服薬結果を確認しやすいこと」65件(62.5%)、「医療情報が電子化されることにより、患者の待ち時間が短縮されること」42件(40.4%)等があげられた。

3. 24 時間・在宅対応・オンライン服薬指導に関する事項

問 25 在宅業務

回答のあった薬局において在宅業務を「行っている」は78件(75.0%)、「行っていない」は9件(8.7%)、「無回答」は17件(16.3%)であった。

在宅業務を行ったきっかけ(複数回答可)としては「介護支援専門員、看護師など医師以外の職種からの要望があった」が63件(80.8%)、「医師からの要望があった」57件(73.1%)、「患者からの要望があった」47件(60.3%)等があげられた。

また、在宅業務を行っていない理由（複数回答可）として「患者や医師などに確認したが、必要性がなかったため」4件（44.4%）、「薬剤師の人員不足のため」3件（33.3%）、「患者や医師などに確認はしていないが、必要性を感じていないため」1件（11.1%）等があげられた。

問 26 オンライン服薬指導

回答のあった薬局においてオンライン服薬指導を「行っている」が18件（17.3%）、「行っていない」68件（65.4%）、「無回答」18件（17.3%）であった。

オンライン服薬指導を行ったきっかけ（複数回答可）としては、「外部からの要望はなかったが薬局内でオンライン服薬指導を行うことを決定した」が8件（44.4%）、「医師からの要望があった」7件（38.9%）、「患者からの要望があった」6件（33.3%）等があげられた。

4. 地域の医療機関等との連携に関する事項

問 29 入退院時の情報を共有する体制

回答のあった薬局において、医療機関の医師又は薬剤師や地域医療連携室等との連携により、入退院時カンファレンスへの参加や入退院時の情報を共有する体制が「ある」は47件（45.2%）、「ない」42件（40.4%）、「無回答」15件（14.4%）であった。

5. その他かかりつけ薬剤師・薬局全般に関する事項

問 35 副作用等の報告

回答のあった薬局において、これまで副作用等の報告を医薬品医療機器総合機構（PMDA）へ行ったことが「ある」は48件（46.2%）、「ない」35件（33.7%）、「わからない」4件（3.8%）、「無回答」17件（16.3%）であった。

問 36 ヒヤリハット事例収集・分析事業

回答のあった薬局において、薬局医療安全対策推進事業における薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業（本設問では「当該事業」と表す）の「参加薬局」として登録を行っているかについて「はい」は78件（75.0%）、

「いいえ（当該事業を知っている）」6件（5.8%）、「わからない（当該事業を知らない）」1件（1.0%）、無回答19件（18.3%）であった。

問 38 プロトコルに基づいた薬物治療管理（PBPM）の取組

回答のあった薬局において、プロトコルに基づいた薬物治療管理（PBPM）の取組を「行っている」は4件（3.8%）、「行っていない」84件（80.8%）、「無回答」16件（15.4%）であった。

問 40 健康増進や健康維持に対する関心を高めてもらうための働きかけ

回答のあった薬局において、患者自身で健康増進や健康維持に対する関心を高めてもらうことを目的として、患者に対しどのような働きかけを行っているかについては（複数回答可）、「患者からの要望に応じて健康増進や健康維持に関する指導やそれらの内容が記載された資料の提供を行っている」が56件（53.8%）、「薬剤師が主導して健康増進や健康維持に関する問いかけ・指導を行っている」54件（51.9%）、「薬局内にある機器を使用して血圧や血糖値を測定することを勧めている」34件（32.7%）、「地域で他の主体が開催する健康相談会・健康セミナー・健康維持に役立つ運動教室やサークル等について情報提供や参加を勧めている」25件（24.0%）等があげられた。

問 42 患者に服薬について深く理解してもらうために実施している事項

回答のあった薬局において、患者に服薬について深く理解してもらうことを目的として、服薬指導を効果的に行うために必要に応じて実施している事項（複数回答可）は、「調剤内容と直接的に関わりのない会話なども交え、患者の関心を高める」が72件（69.2%）、「薬を飲まなかった場合の健康悪化など懸念される事項について説明し、患者の関心を高める」65件（62.5%）、「調剤した薬剤の服薬について患者がある程度理解していることを確認するまで、何度でも説明する」64件（61.5%）等があげられた。

令和3年度に実施したプレアンケート調査

を基に、調査項目等について検討や修正を加えた後、令和4年度はインターネットと郵送を合わせた全国アンケート調査（薬局1,000件を目標）に実施する予定である。

D. 健康危機情報

なし。

E. 研究発表

「薬局薬剤師の業務及び薬局機能に関するワーキンググループ」令和4年2月14日厚生労働省主催の検討会にて、『資料3-3 薬剤師の職能のための薬学的知見に基づく継続的な指導等の方策についての調査研究(益山光一参考人提出資料)』として発表。

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

薬剤師交付から次回来局までのフォローアップの実践事例について

○患者基本情報	①年齢（60代などで記載） ②性別（男性 女性） ③把握している疾患及びその状況（原疾患、既往歴、合併症及び他科受診で加療中の疾患を含む） ④かかりつけの有無（有 無） ⑤外来か 在宅か ⑥その他
○処方内容	⑦薬剤名（当該薬局で把握されている処方薬すべて記載し、特にフォローアップの要因となった医薬品がある場合は、その医薬品を赤色でご記載ください。） ⑧用法・用量（各薬剤毎） ⑨日数（処方日数がわかるように） ⑩全量
○その他特記事項	⑪事例に特有な点等あればご記載ください。

(1) フォローアップを実施した理由

(2) 患者等への確認のタイミング

(3) 患者等への確認の方法

(4) 患者等への確認事項

(5) 分析と評価

記載可能な範囲で結構です。

(6) 結果と対応

(7) 記録の工夫

（通常の患者対応以外に、複数の薬剤師や医師等への情報提供への考慮等、特段の工夫等あればお書きください。）

(8) その他

フォローアップ報告書フォーマット

事例要点	
患者情報	
性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
年齢	歳
疾病に関する情報(既往歴、合併症及び他科受診において加療中の疾病に関するものも含む)	
かかりつけ薬剤師指導料(調剤報酬における算定)の有無	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
アレルギー歴	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
副作用歴	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
薬学的管理に必要な患者の生活像	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
その他(検査データ等)	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
併用薬(要指導医薬品、一般用医薬品、医薬部外品及び健康食品)	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
相互作用が認められる飲食物の摂取状況	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
服薬状況	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不良(残薬) <input type="checkbox"/> あり:理由 () <input type="checkbox"/> なし
来局頻度	<input type="checkbox"/> () か月毎 <input type="checkbox"/> () 週間毎 <input type="checkbox"/> 単回 <input type="checkbox"/> その他()
フォローアップ実施開始日	年 月 <input type="checkbox"/> 初めてフォローアップをした日 <input type="checkbox"/> 新たにフォローアップを再開した日 <input type="checkbox"/> その他()
フォローアップ期間	<input type="checkbox"/> () 年 <input type="checkbox"/> () か月 <input type="checkbox"/> () 週間 <input type="checkbox"/> その他()
処方内容	
フォローアップの要因となった医薬品名と用法用量、処方日数	
その他の医薬品名と用法用量、処方日数(当該薬局で把握されている処方薬全てを記載してください)	
フォローアップの重点事項・タイミング	
フォローアップの重点事項(以下の4つのいずれかの観点から ①個々の患者の特性 ②罹患している疾病の特性 ③当該使用薬剤の特性 ④その他)	
患者等への確認のタイミング(なぜそのタイミングにしたのか、使用薬剤の特性や患者像から判断した理由)	
患者等への確認	
患者等への確認方法	<input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> 来局時 <input type="checkbox"/> (患者宅への)訪問 <input type="checkbox"/> FAX <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> SNS <input type="checkbox"/> アプリ <input type="checkbox"/> その他 ()
患者等への確認事項	<input type="checkbox"/> 薬剤等の服薬状況(残薬の状況、服用しづらくないか、服用において不便なことはないか等)
	<input type="checkbox"/> 副作用発現の有無
	<input type="checkbox"/> 使用中の薬剤の効果
	<input type="checkbox"/> 薬剤使用中の体調の変化
	<input type="checkbox"/> 患者基本情報の変化
	<input type="checkbox"/> 併用薬や食品・嗜好品との相互作用による影響
	<input type="checkbox"/> 生活機能への影響
	<input type="checkbox"/> 生活の特性の変化
	<input type="checkbox"/> 使用中の薬剤に対する意識(先入観、不安感等)
<input type="checkbox"/> その他 ()	

分析と評価		
分析	フォローアップ前の体調	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他 ()
	フォローアップ前の副作用	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他
	フォローアップ前の服薬状況	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他 ()
	フォローアップ前の使用薬剤の効果	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他 ()
	他職種連携への貢献	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
フォローアップを実施した際の患者の状況		
評価		
結果と対応		
患者の状況を確認して薬剤師がとった行動		
結果と対応		
フォローアップ後の患者の状況等	【フォローアップ後の患者の状況について】	
	処方変更の有無	<input type="checkbox"/> 有 () <input type="checkbox"/> 無
	フォローアップ後の体調	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の副作用	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の服薬状況	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の使用薬剤の効果	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の患者基本情報の変化	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の併用薬や食品・嗜好品との相互作用による影響	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の生活特性・機能への影響	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の使用医薬品に対する意識(先入観、不安感等)	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	他職種連携への貢献	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
記録		
記録の工夫した点		
トレーシングレポート提出		
トレーシングレポート提出	<input type="checkbox"/> 提出した(内容;) 結果;) <input type="checkbox"/> 未提出 <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他		
報告書記入日		
年 月 日		

問 8 令和4年2月1日現在、貴局で取り扱っている医療用医薬品（うち後発医薬品、医療用麻薬）、要指導医薬品、一般用医薬品の品目数※1をご記入ください。また一般用検査薬、衛生材料、医療機器（医療材料を含む）、介護用品、健康食品※2、介護食品※3の取り扱いの有無をご記入ください。なお、ドラッグストア等店舗販売業を併設している場合は、ドラッグストア等での取扱い品目数も加えてご記入ください。

① 医療用医薬品	品目	⑦ 一般用検査薬	01 ある 02 ない
② うち 後発医薬品	品目	⑧ 衛生材料	01 ある 02 ない
③ うち 医療用麻薬	品目	⑨ 高度管理医療機器	01 ある 02 ない
④ 要指導医薬品※1	品目	⑩ ⑨以外の医療機器・材料	01 ある 02 ない
⑤ 一般用医薬品※1	品目	⑪ 介護用品	01 ある 02 ない
⑥ 薬局製造販売医薬品	品目	⑫ 健康食品※2	01 ある 02 ない
		⑬ 介護食品※3	01 ある 02 ない

※1. 販売実績にかかわらず、店内で陳列している品目数（アイテム数；同じ製品であっても、包装される錠数のサイズが異なる場合はそれぞれを1品目として計上してください）をご記入ください。
 ※2. 特定保健用食品、機能性表示食品、サプリメント等のいわゆる「健康食品」を指します。
 ※3. 嚥下能力や咀嚼能力が低下した高齢者向けの食品を指します。

《問8-1は、問8の「③ うち 医療用麻薬」で「0」品目とご回答の場合、ご回答ください》

問8-1 医療用麻薬を取り扱わない理由をお答えください。（あてはまるもの全てに○）

01 調剤の需要がほとんど無いため
 02 使用しなかった麻薬を廃棄する場合の経済的損失が大きいため
 03 麻薬保管庫を置くスペースがないため
 04 規制が多く管理に手間がかかるため
 05 麻薬が盗難された場合の責任が重いため
 06 その他（ ）

《問8-2は、問8の「③ うち 医療用麻薬」で「0」以外の品目数をご回答の場合、ご回答ください》

問8-2 令和4年1月1カ月間における医療用麻薬の調剤回数（応需処方箋枚数）
 をご記入ください。

□

問9 令和4年1月1カ月間に応需した処方箋枚数、処方箋の集中率（上位3位まで）をご記入ください。

① 処方箋枚数（1カ月間分）	枚
② 処方箋集中度※	1位（ ）% 2位（ ）% 3位（ ）%

※ 処方箋の集中度については、令和4年1月1カ月間に受け付けた処方箋数が多い医療機関上位3施設分について、それぞれの受付回数を、全医療機関からの受付回数で除した割合（小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで）をご記入ください。

問10 令和4年1月1カ月間に応需した処方箋の発行元医療機関数（実数）

施設

問11 令和4年1月1カ月間に医療用医薬品を調剤した患者数、そのうち複数医療機関を受診している事を把握している患者数（同一医療機関の複数の診療科を受診している患者も含む）についてご記入ください。

① 1カ月間に医療用医薬品を調剤した来局患者数（実人数）	人
② ①のうち、複数医療機関を受診している事を把握している患者数（実人数）	人

問 12 貴局の職員数について職種別、介護支援専門員の資格の有無別にご記入ください。非常勤職員については実人数、常勤換算※（小数点以下第 1 位まで）をご記入ください。また、その他職員のうち介護支援専門員の資格等の有資格者がいる場合には、主な資格の内容についてもご記入ください。

	介護支援専門員の資格の保有	常勤職員	非常勤職員	
			実人数	常勤換算※
① 薬剤師	①-1 保有している	人	人	人
	①-2 保有していない	人	人	人
② 登録販売者 (①に計上した者は除く)	②-1 保有している	人	人	人
	②-2 保有していない	人	人	人
③ その他職員		人	人	人
	④ ③のうち、有資格者	人	(主な資格内容：)	

※ 非常勤職員の常勤換算については、以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第一位までお答えください。

- ・ 1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (貴局が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間)
- ・ 1 カ月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 カ月の勤務時間) ÷ (貴局が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間×4)

問 13 貴局における薬剤師の認定等の取得者数（実人数）をご記入ください。

① 認定薬剤師（CPC の認定を受けたもの）	人	② ①以外の認定・専門薬剤師数	人
------------------------	---	-----------------	---

問 14 貴局は健康サポート薬局の届出をしていますか。（○は 1 つ）

01 はい	02 いいえ（今後、届出予定あり）	03 いいえ（今後、届出予定なし）
-------	-------------------	-------------------

問 15 貴局における健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師数（実人数）

	人
--	---

《問 15-1 は、問 15 で「0」人のご回答の場合、ご回答ください》

問 15-1 現在、健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師がない理由についてお答えください。
(あてはまるもの全てに○)

- 01 業務が忙しく、薬剤師が研修を受講する時間がないため
- 02 研修を受講する必要性を感じないため
- 03 健康サポート薬局に係る研修の応募者が多く、受講できないため
- 04 薬局として健康サポート薬局の基準を満たすことが困難なため
- 05 その他 ()

《問 15-2 は、問 15 で「0」人以外のご回答の場合、ご回答ください》

問 15-2 貴局に所属する健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師が、地域ケア会議等の地域の多職種が参加する会議に参加したことがありますか。（○は 1 つ）

- 01 はい
- 02 いいえ

《問 15-2-1 は、問 15 で「0」人以外のご回答の場合、ご回答ください》

問 15-2-1 貴局の健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師が、令和 4 年 1 月 1 カ月間に、地域ケア会議等の地域の多職種が参加する会議に参加した回数をご記入ください。
なお、健康サポート薬局研修を修了した複数の薬剤師が同一の会議に参加した場合は、1 回として計上してください。

回

II かかりつけ薬剤師・薬局に関する事項についてお伺いします。

1 患者の服薬情報の一元的・継続的把握とそれに基づく薬学的管理・指導に関する事項

問 16 貴局では、特定の患者を継続して担当する薬剤師はいますか（「かかりつけ薬剤師指導料」等を算定していない場合も含む。また同意書の有無は問わない）。（○は1つ）

01 いる 02 いない（⇒ 問 17 へ）

＜問 16-1～問 16-4 は、問 16 で「01 いる」とご回答の場合、ご回答ください＞

問 16-1 特定の患者を継続して担当する薬剤師は、患者からの選択により決定しますか。

01 はい 02 いいえ 03 その他（ ）

問 16-2 特定の患者を継続して担当する薬剤師の人数をお答えください。

① 特定の患者を継続して担当する薬剤師の人数（実人数）	人
② ①のうち、かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料を算定している薬剤師の人数（実人数）	人

問 16-3 令和 4 年 2 月 1 日（火）に、かかりつけ薬剤師等が服薬指導をした件数についてご記入ください。

① 算定件数*	件
② 算定していないが、算定要件を満たしたかかりつけ薬剤師が当該患者に指導したもの	件
③ 算定要件は満たしていないが、患者が指名した薬剤師が当該患者に指導したもの	件

*本設問において「算定」とは、かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料の算定のことを指します。

問 16-4 貴局の薬剤師が継続して担当している特定の患者について、当該患者が入退院した際の患者情報の授受を、患者が入退院した医療機関との間で行っていますか。（あてはまるもの全てに○）

① 入院時における医療機関への情報提供	01 全ての患者について情報提供している 02 患者の状態像に応じて情報提供している 03 入院する医療機関によって情報提供している 04（02 や 03 の他）必要に応じて情報提供している 05 医療機関へ情報提供していない
② 退院時における医療機関からの情報把握	01 退院時カンファレンスに参加して患者情報を把握している 02 地域の医療機関との間で患者情報を提供してもらうよう取り決めを行っている 03 地域の医療機関の主導により患者情報の提供がなされている 04 都度、医療機関に患者情報の提供を依頼している 05 退院時における医療機関からの情報把握は行っていない

問 17 貴局における患者情報の一元的な把握の範囲について、ご記入ください。（あてはまるもの全てに○）

- 01 患者がかかっている全ての医療機関を把握するよう取り組んでいる
02 患者が服用している全ての医薬品（OTC 含む）を把握するよう取り組んでいる
03 患者が服用している全ての健康食品、サプリメントを把握するよう取り組んでいる
04 患者の病名を把握するよう取り組んでいる
05 患者の検査値を把握するよう取り組んでいる
06 その他（ ）
07 該当なし（自局で調剤した医薬品等の情報のみ把握している）（⇒ 問 18 へ）

「問 17-1・問 17-2 は、問 17 で「01」～「05」のうち1つでもご回答の場合、ご回答ください」

問 17-1 患者が服用している医薬品に関する情報をどのように収集していますか。(あてはまるもの全てに○)

01 処方箋へ印字、記載された情報	02 お薬手帳へ印字、記載された情報
03 医療関係施設からの患者情報の連絡文書	04 地域医療情報連携ネットワーク等で導入しているシステム
05 患者、家族への質問等	06 処方元医療機関への問い合わせ
07 その他 ()	

問 17-2 問 17 の取組を行っていて良かったことをお選びください。(あてはまるもの全てに○)

01 重複投薬を防ぐことができた	02 相互作用のある薬の飲み合わせを防ぐことができた
03 患者の服用する薬が減った	04 (01～03 以外で) 疑義照会につながった
05 次回の処方内容が変更になった	06 患者のアドヒアランスの向上につながった
07 その他 ()	
08 特に良かったことはない	

問 18 貴局での患者情報の継続的な把握方法についてお選びください。(あてはまるもの全てに○)

01 患者が来局した時に、前回来局してからの服薬状況や体調の変化についてフォローアップを行っている
02 患者に服薬指導をした後、電話等で連絡をするなど、フォローアップを行っている
03 患者の退院時に、入院していた医療機関から、患者情報を受け取っている
04 その他 ()
05 該当なし(上記の取組を行っていない) (⇒ 問 19 へ)

「問 18-1～問 18-2 は、問 18 で「01」～「04」のうち1つでもご回答の場合、ご回答ください」

問 18-1 令和 4 年 2 月 1 日 (火) において、診療報酬の算定を問わず、フォローアップを行った患者数をご記入ください。

① フォローアップを行った患者数 (実人数)	人
② ①のうち、副作用を発見した患者数 (実人数)	人
③ ②のうち、経過改善が見られた患者数 (実人数)	人
④ ①のうち、残薬を発見した患者数 (実人数)	人
⑤ ④のうち、経過改善が見られた患者数 (実人数)	人
⑥ ①のうち、服薬に関する再指導を実施した患者数 (実人数)	人
⑦ ⑥のうち、経過改善が見られた患者数 (実人数)	人
⑧ ①のうち、得られた情報を処方医等にフィードバックした患者数 (実人数)	人
⑨ ⑧のうち、情報提供書等を用いて処方医に情報提供を行った患者数 (実人数)	人
⑩ ⑧のうち、処方医に処方提案を行った患者数 (実人数)	人
⑪ ⑧のうち、次回の処方内容の変更に至った患者数 (実人数)	人
⑫ ⑧のうち、処方医以外の他職種に情報提供を行った患者数 (実人数)	人

問 18-2 貴局でフォローアップを行っている患者の主たる疾患をお選びください。(あてはまるもの全てに○)

01 がん	02 糖尿病	03 高血圧症	04 喘息
05 精神疾患	06 慢性疼痛	07 神経障害性疼痛	08 認知症
09 その他 ()			

問 19 貴局では電子版お薬手帳*を導入していますか。(○は1つ)

01 導入している (⇒ 問 20 へ)	02 導入していない
----------------------	------------

*「お薬手帳(電子版)の運用上の留意事項について」(平成 27 年 11 月 27 日付け薬生総発 1127 第 4 号厚生労働省医薬・生活衛生局総務課長通知)の「第 2 提供薬局等が留意すべき事項」を遵守する体制が構築されているとともに、「第 3 運営事業者等が留意すべき事項」を遵守する電子版お薬手帳を提供している場合に「01 導入している」とし、それ以外の場合は「02 導入していない」とお答えください。

《問 19-1 は、問 19 で「O2 導入していない」とご回答の場合、ご回答ください》

問 19-1 電子版お薬手帳を導入していない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)	
O1 導入費用の負担が大きい	O2 運用費用の負担が大きい
O3 必要性を感じていない	O4 希望する患者がいない
O5 システムを設置するスペースがない	O6 導入を検討したことがない
O7 その他 ()	

問 20 令和 4 年 1 月 1 カ月間において、電子版お薬手帳を持参した患者数について、応需した処方箋枚数ベースでお答えください。	枚
---	---

問 21 貴局では薬歴管理の電子化を行っていますか。(○は1つ)	
O1 行っている	O2 行っていない

問 22 電子版お薬手帳や電子薬歴システムを使用することにより、紙のお薬手帳や紙の薬歴を使用する場合と比べて、どのようなメリットがあると感じていますか。(あてはまるもの全てに○) なお、「⑥ その他」として該当する事項がある場合、括弧内に具体的にご記入ください。		
	電子版お薬手帳	電子薬歴システム
① 患者の同意のもと他職種に対して患者情報の提供を円滑に行えること		
② 体重、血糖値などのデータを経時的に把握しやすいこと		
③ 患者の服薬結果を確認しやすいこと		
④ 電子版お薬手帳における薬の飲み忘れ防止機能により、患者の飲み忘れが減ったこと		
⑤ 医療情報が電子化されることにより、患者の待ち時間が短縮されること		
⑥ その他 ()		
⑦ メリットは特に感じていない		

2 24 時間・在宅対応・オンライン服薬指導に関する事項

問 23 令和 4 年 2 月 1 日 (火) における開局時間外の電話相談件数をご記入ください。(同一の患者から短時間に複数回、電話がかかってきた場合にも、別の件数として計上してください) なお、閉局日の夜間における件数は、閉局日の欄にご記入ください。		
	夜間	閉局日
① 開局時間外の電話相談件数	件	件
② ①のうち、かかりつけ薬剤師が対応した件数(報酬を算定していないものも含む)	件	件
③ ①のうち、小児に関連する相談件数	件	件
④ ①のうち、在宅業務に関連する相談件数	件	件

問 24 貴局での開局時間外の調剤応需の状況についてお選びください。(あてはまるもの全てに○)	
O1 患者ごとに担当の薬剤師が対応している	
O2 患者ごとの担当の薬剤師が対応するのではなく、薬局として対応している	
O3 他の薬局などと協力し、当番制などで対応し、服薬指導の内容などを共有している	
O4 他の薬局などと協力し、当番制などで対応しているが、服薬指導の内容などは共有していない	
O5 その他 ()	
O6 該当なし(上記の取組を行っていない) (⇒ 問 25 へ)	

《問 24-1 は、問 24 で「01」～「05」のうち1つでもご回答の場合、ご回答ください》

問 24-1 令和 4 年 1 月 1 カ月間における開局時間外の調剤件数（患者の求めに応じ、通常の開局時間外に調剤した件数）について、ご記入ください。 なお、閉局日の夜間に調剤した件数は、閉局日の欄にご記入ください。		
	夜間	閉局日
開局時間外に必需し、調剤した件数	件	件

問 25 貴局では在宅業務*を行っていますか。（○は1つ）

01 行っている（⇒ 問 25-1 へ） 02 行っていない（⇒ 問 25-4 へ）

※ 本調査において「在宅業務」とは、診療報酬・介護報酬上の算定要件にかかわらず、患者を訪問し、薬学的管理指導を行うことを意味します。

《問 25-1～問 25-3 は、問 25 で「01 行っている」とご回答の場合、ご回答ください》

問 25-1 在宅業務を行ったきっかけについてお選びください。（あてはまるもの全てに○）
01 患者からの要望があった
02 医師からの要望があった
03 介護支援専門員、看護師など医師以外の職種からの要望があった
04 地域ケア会議等で要望があった
05 外部からの要望はなかったが貴局内で在宅業務を行うことを決定した
06 その他（)

問 25-2 問 25-1 の選択肢「01」～「06」のうち、在宅業務を行ったきっかけとして最もあてはまる番号を1つご記入ください。	
--	--

問 25-3 令和 4 年 1 月 1 カ月間における在宅業務の実施状況についてご記入ください。				
	訪問建物数 (延べ数)	訪問患者数 (延べ数)	訪問 1 回当たりの 平均往復移動時間*3	訪問 1 回当たりの 平均指導時間*4
① 一般住宅*1	箇所	人	分	分
② 居住系施設*2	箇所	人	分	分

※1. 戸建て、マンション、アパート、団地等

※2. サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、介護医療院等

※3. 貴局と訪問先の建物の平均的な往復移動時間についてお答えください。なお、一度に複数の建物を訪問した場合については、貴局を出発してから戻ってくるまでに要した移動時間を訪問先の建物数で除算した数値をご記入ください。

※4. 訪問先において行う平均的な服薬指導を行う時間についてお答えください。

《問 25-4 は、問 25 で「02 行っていない」とご回答の場合、ご回答ください》

問 25-4 在宅業務を行っていない理由についてお選びください。（あてはまるもの全てに○）
01 薬剤師の人員不足のため
02 在宅業務を行うための費用（人件費・設備費等）が経営上、大きな負担であるため
03 薬剤師が高齢であり体力的な問題があるため
04 在宅業務の経験・知識がなく、対応方法がわからないため
05 患者や医師などに確認したが、必要性がなかったため
06 患者や医師などに確認はしていないが、必要性を感じていないため
07 その他（)

問 26 貴局ではオンライン服薬指導*を行っていますか。（○は1つ）

01 行っている（⇒ 問 26-1 へ） 02 行っていない（⇒ 問 26-2 へ）

※ 本調査において「オンライン服薬指導」とは、診療報酬上の算定要件にかかわらず、情報通信機器を用いて薬学的管理指導を行うことを意味します。

《問 26-1 は、問 26 で「01 行っている」とご回答の場合、ご回答ください》

問 26-1 オンライン服薬指導を行ったきっかけについて、ご記入ください。(あてはまるもの全てに○)	
01 患者からの要望があった	
02 医師からの要望があった	
03 介護支援専門員、看護師など医師以外の職種からの要望があった	
04 地域ケア会議等で要望があった	
05 外部からの要望はなかったが貴局内でオンライン服薬指導を行うことを決定した	
06 その他 ()

3 地域の医療機関等との連携に関する事項

問 27 令和 4 年 1 月 1 力月間における処方元医療機関への疑義照会の状況についてご記入ください。	
① 処方元医療機関への疑義照会件数	件
② ①のうち、処方提案(薬剤選択、投与量、投与方法、投与期間等を医師に提案すること)を行った件数	件
③ ①のうち、小児に関連する相談件数	件

問 28 地域医療情報連携ネットワーク(患者の同意のもと、診療情報などを地域の医療機関・薬局で共有するネットワーク)に参加し、患者情報の共有等による薬学的管理の向上に取り組んでいますか。(○は1つ)	
01 取り組んでいる	
02 薬局が参加可能な地域医療情報連携ネットワークがあるが、取り組んでいない	
03 薬局が参加可能な地域医療情報連携ネットワークがないため、取り組んでいない	
04 薬局が参加可能な地域医療情報連携ネットワークがあるか否かを把握していない	

問 29 貴局では、医療機関の医師又は薬剤部や地域医療連携室等との連携により、入退院時カンファレンスへの参加や入退院時の情報を共有する体制がありますか。	01 ある 02 ない (⇒ 問 30 へ)
--	------------------------------

《問 29-1 は、問 29 で「01 ある」とご回答の場合、ご回答ください》

問 29-1 令和 4 年 1 月 1 力月間に、問 29 に示す医療機関の医師又は薬剤部や地域医療連携室等との連携により、入退院時カンファレンスへの参加や入退院時の情報を共有した回数をご回答ください。	回
---	---

問 30 貴局では、薬局の利用者からの健康に関する相談に適切に対応し、そのやり取りを通じて、必要に応じ医療機関への受診勧奨を行う際に、利用者の同意を得た上で、当該利用者の情報等を文書により医療機関(医師)に提供する体制がありますか。	01 ある 02 ない (⇒ 問 31 へ)
--	------------------------------

《問 30-1 は、問 30 で「01 ある」とご回答の場合、ご回答ください》

問 30-1 令和 4 年 1 月 1 力月間に、問 30 に示す受診勧奨を行う際に、利用者の同意を得た上で、当該利用者の情報等を文書により医療機関(医師)に提供した回数をご回答ください。	回
--	---

問 31 貴局では、患者の同意を得た上で、患者の服薬状況等を服薬情報等提供料に係る情報提供書等の文書により、医療機関(医師)に提供したことがありますか。 なお、服薬情報等提供料の算定有無にかかわらずご回答ください。	01 ある 02 ない (⇒ 問 31-2 へ)
--	--------------------------------

《問 31-1 は、問 31 で「01 ある」とご回答の場合、ご回答ください》

問 31-1 令和 4 年 2 月 1 日(火)に、患者の同意を得た上で、患者の服薬状況等を服薬情報等提供料に係る情報提供書等の文書により、医療機関(医師)に提供した回数をご記入ください。なお、服薬情報等提供料の算定有無にかかわらずご計上ください。	回
--	---

《問 31-2 は、問 31 で「02 ない」とご回答の場合、ご回答ください》

問 31-2 医療機関（医師に対して患者の服薬情報等を示す文書を提供していない理由をお選びください。
（あてはまるもの全てに○）

- 01 医師からの求めがないため
- 02 文書を提供しても医師が必要としないと思うため
- 03 文書を作成・提供することに手間がかかるため
- 04 文書以外の手段（地域医療情報ネットワーク、口頭、電話等）で情報提供しているため
- 05 患者の服薬情報等を提供すること自体に意義を感じていないため
- 06 医師に情報提供できるほど、患者の服薬情報等を把握していないため
- 07 患者の同意を得ることができなかったため
- 08 その他（ _____ ）

問 32 貴局における他職種との連携（医療機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション等との連携）の具体的方法・内容について、ご記入ください。（あてはまるもの全てに○）

- 01 他職種が質の向上を図るための研修会の開催・参加
- 02 地域ケア会議等における検討・情報共有（⇒ 1年に約 _____ 回）
- 03 地域ケア会議以外の会合における検討・情報共有
（⇒ 会合の種類を具体的に： _____ ）
- 04 地域の医療機関・介護施設等の連絡先をリスト化して、地域で共有している
- 05 近隣の医療機関・介護施設等と都度、連絡を取り合っている
- 06 医師の在宅訪問への同行
- 07 その他（ _____ ）
- 08 該当なし（他職種と連携していない）

問 33 他の薬局をかかりつけにしている患者が来局した際に得られた服薬情報等を、その患者のかかりつけ薬局へ情報提供していますか。

- 01 行っている
- 02 行っていない
（⇒ 問 34 へ）

《問 33-1 は、問 33 で「01 行っている」とご回答の場合、ご回答ください》

問 33-1 具体的な情報提供方法についてお答えください。（あてはまるもの全てに○）

- 01 お薬手帳（紙・電子版のいずれも）への記入・シールの貼付
- 02 電話による直接的な情報共有
- 03 電子メール・FAX による情報共有
- 04 地域医療情報連携ネットワークを通じた情報共有
- 05 その他（ _____ ）

問 34 貴局において実施している、地域での活動についてご記入ください。（あてはまるもの全てに○）

- 01 地域ケア会議への参加
- 02 地域住民向けの講演やお薬相談会などの実施
- 03 学校等における薬物乱用防止や薬の使用法などに関する講演の実施
- 04 （03 以外の）学校薬剤師としての活動
- 05 その他（ _____ ）
- 06 実施していない

4 その他かかりつけ薬剤師・薬局全般に関する事項

問 35 貴局では、これまで副作用等の報告※を医薬品医療機器総合機構（PMDA）へ行ったことがありますか。（〇は1つ）

01 はい 02 いいえ（⇒ 問 36 へ） 03 わからない（⇒ 問 36 へ）

※ 問 35、問 35-1 における副作用等の報告とは、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第 68 条の 10 第 2 項に基づく報告を指します。

〈問 35-1 は、問 35 で「01 はい」とご回答の場合、ご回答ください〉

問 35-1 貴局における令和 4 年 1 月 1 カ月間の副作用等の報告を実施した延べ件数をご記入ください。	件
---	---

問 36 貴局では、薬局医療安全対策推進事業における 薬局 ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業（本設問では「当該事業」と表す）の「参加薬局」として登録を行っていますか。（〇は1つ）

01 はい 02 いいえ(当該事業を知っている)(⇒ 問 37 へ) 03 わからない(当該事業を知らない) (⇒ 問 37 へ)

〈問 36-1 は、問 36 で「01 はい」とご回答の場合、ご回答ください〉

問 36-1 貴局では、令和 4 年 1 月 1 カ月間に、疑義照会により処方変更がなされた結果、患者の健康被害や医師の意図した薬効が得られないことを防止するに至った事例をヒヤリ・ハット事例として報告していますか。	01 行っている 02 行っていない
---	-----------------------

問 37 貴局では、問 36 で回答いただいた薬局医療安全対策推進事業におけるヒヤリ・ハット事例収集・分析事業以外にプリアロイド事例に関して把握・収集する取組※を行っていますか。（〇は1つ）

01 行っている 02 行っていない

※ プリアロイドとは、Prevent and avoid the adverse drug reaction（薬による有害事象を防止・回避する）という言葉に基づいた造語であり、医療機関では一般社団法人日本病院薬剤師会においても薬剤師が薬物療法に直接関与し、薬学的患者ケアを実践して患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例をプリアロイドと称して報告を収集し、共有する取組が行われています。近年では、医療機関だけではなく、薬局における副作用等の健康被害の回避症例等も収集し、当該情報を医療機関等の関係者と連携して共有する取組も行われており、このような取組を行っている場合を指します。

問 38 貴局では、プロトコルに基づいた薬物治療管理（PBPM※）の取組を行っていますか。（〇は1つ）

01 行っている 02 行っていない（⇒ 問 39 へ）

※ PBPM（Protocol Based Pharmacotherapy Management）とは、「薬剤師に認められている業務の中で、医師と合意したプロトコルに従って薬剤師が主体的に実施する業務を行うこと」です。

〈問 38-1 は、問 38 で「01 行っている」とご回答の場合、ご回答ください〉

問 38-1 貴局が行っているプロトコルに基づいた薬物治療管理（PBPM）の取組について、具体的にご記入ください。

--

問 39 ア. 令和 4 年 1 月 1 カ月間に、処方箋に併記する形などで患者の検査値や疾患名等の情報を医療機関から受け取った上で服薬指導を行った件数を、処方箋枚数ベースでお答えください。
 なお、検査値と疾患名の情報を同時に受け取った場合には、①検査値、②疾患名のそれぞれの枚数に計上してください。
 イ. また、検査値や疾患名等の情報を受け取った上で服薬指導を行ったことによるメリットをご記入ください。(自由記述)

	ア. 服薬指導件数	イ. 検査値や疾患名等の情報を受け取って服薬指導を行うメリット
① 検査値	件	
② 疾患名	件	
③ その他 ()	件	

問 40 貴局では、患者自身で健康増進や健康維持に対する関心を高めてもらうことを目的として、患者に対してどのような働きかけを行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

- 01 薬剤師が主導して健康増進や健康維持に関する問いかけ・指導を行っている
- 02 患者からの要望に応じて健康増進や健康維持に関する指導やそれらの内容が記載された資料の提供を行っている
- 03 薬局内にある機器を使用して血圧や血糖値を測定することを勧めている
- 04 貴局単独で開催する患者の健康相談会・健康セミナーへの参加を勧めている
- 05 地域で他の主体が開催する健康相談会・健康セミナー・健康維持に役立つ運動教室やサークル等について情報提供や参加を勧めている
- 06 その他()
- 07 意識的に何らかの働きかけは行っていない

問 41 薬局業務の生産性向上を目的として実施している事についてお教えてください。(あてはまるもの全てに○)

01 ICT システムの導入 (⇒ 下枠内の「101」～「108」のうち該当する番号に○)

101 電子薬歴システムの導入	102 電子版お薬手帳の導入
103 自動分包機の導入	104 医薬品自動発注システムの導入
105 薬剤師と患者とのコミュニケーションを円滑化するツール(チャット、スマホアプリ等)	
106 在庫管理システムの導入	107 調剤監査システムの導入
108 その他()	

- 02 地域医療情報連携ネットワークへの参加
- 03 薬局業務改善のためのコンサルタント導入
- 04 法人本部から助言を得る
- 05 地域薬剤師会への加入
- 06 地域のお薬手帳との業務提携
- 07 地域のお薬手帳との協力(業務提携以外)
- 08 薬局機能の専門化(例:在宅業務、高度薬学管理業務等に特化)
- 09 薬剤師を多く雇用する
- 10 薬剤師の患者担当制の導入
- 11 薬剤師の担当制(調剤、在宅等)の導入
- 12 同一法人内薬局間における人事異動を減らす
- 13 その他()

問 42 患者に服薬について深く理解してもらうことを目的として、服薬指導を効果的に行うために必要に応じ実施している事項をお教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- 01 調剤した薬剤の服薬について患者がある程度理解していることを確認するまで、何度でも説明する
- 02 調剤内容と直接的に関わりのない会話なども交え、患者の関心を高める
- 03 薬を飲まなかった場合の健康悪化など懸念される事項について説明し、患者の関心を高める
- 04 過去に薬を飲み続けたことで検査値が維持・改善していることをデータで示し、患者の関心を高める
- 05 薬剤に関する資料を使用して説明する
- 06 服薬指導を効果的に行うためのマニュアルを作成して活用している
- 07 プライバシーに配慮するためのパーテーションを設置している
- 08 患者家族にも同席してもらっている
- 09 その他()
- 10 上記事項は特に行っていない

サマリー (要点) 何の疾患
 のどんな患者にどう効果があったのか

患者情報

性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
年齢	歳 <input type="text"/> 代 <input type="text"/>
疾病に関する情報(原疾患、既往歴、合併症等)	
料(調剤報酬における算定の有無)	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
アレルギー歴	有 (<input type="text"/>) <input type="checkbox"/> 無
副作用歴	有 (<input type="text"/>) <input type="checkbox"/> 無
薬学的管理に必要な患者の生活像	
その他(検査データ等)	有 (<input type="text"/>) <input type="checkbox"/> 無
併用薬(要指導医薬品、一般用医薬品、医薬部外品及び健康食品)	有 (<input type="text"/>) <input type="checkbox"/> 無
相互作用が認められる飲食物の摂取状況	有 (<input type="text"/>) <input type="checkbox"/> 無
服薬状況	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不良 (残薬 <input type="checkbox"/> 有:理由 (<input type="text"/>) <input type="checkbox"/> 無)
来局頻度	(<input type="text"/>) か月毎 <input type="checkbox"/> (<input type="text"/>) 週間毎 <input type="checkbox"/> 単回 <input type="checkbox"/> その他 (<input type="text"/>)
フォローアップ実施開始日	年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 <input type="checkbox"/> 初めてフォローアップした日 <input type="checkbox"/> 新たにフォローアップを再開した日 その他 (<input type="text"/>)
フォローアップ期間	(<input type="text"/>) 年 <input type="checkbox"/> (<input type="text"/>) か月 (<input type="text"/>) 週間 <input type="checkbox"/> その他 (<input type="text"/>)

フォローアップの要因となった医薬品名と用法用量、処方日数

その他の医薬品名と用法用量、処方日数(当該薬局で把握されている処方薬全てを記載してください)

【分析と評価】フォローアップを実施した理由 (患者の状況など)

患者等への確認のタイミング (なぜそのタイミングにしたのか、使用薬剤の特性や患者像から判断した理由)

フォローアップ前

体調	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 悪い	その他 (<input type="text"/>)
副作用	有 (<input type="text"/>) <input type="checkbox"/> 無	その他 (<input type="text"/>)
服薬状況	良い <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他 (<input type="text"/>)	
使用薬剤の効果	良い <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他 (<input type="text"/>)	
他職種連携への貢献	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	

確認方法

<input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> 来局時 <input type="checkbox"/> (患者宅への)訪問 <input type="checkbox"/> FAX <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> アプリ
その他 (<input type="text"/>)

確認事項

薬剤等の服薬状況(残薬の状況、服用しづらくないか、服用において不便なことはないか等)
副作用発現の有無
使用中の薬剤の効果
薬剤使用中の体調の変化
患者基本情報の変化
併用薬や食品・嗜好品との相互作用による影響
生活機能への影響
生活の特性の変化
使用中の薬剤に対する意識(先入観、不安感等)
その他 (<input type="text"/>)

フォローアップした内容
 患者の状況を確認して薬剤師がとった行動など

【結果と対応】

フォローアップ後

処方変更の有無	有 (<input type="text"/>) <input type="checkbox"/> 無
体調	改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化 (<input type="text"/>)
副作用	改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化 (<input type="text"/>)
服薬状況	改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化 (<input type="text"/>)
使用薬剤の効果	改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化 (<input type="text"/>)
患者基本情報の変化	改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化 (<input type="text"/>)
併用薬や食品・嗜好品との相互作用による影響	改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化 (<input type="text"/>)
生活特性・機能への影響	改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化 (<input type="text"/>)
使用医薬品に対する意識(先入観、不安感等)	改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化 (<input type="text"/>)
他職種連携への貢献	有 (<input type="text"/>) <input type="checkbox"/> 無

記録

トレーシングレポートの提出

提出した	内容; (<input type="text"/>) 結果; (<input type="text"/>)
未提出	
その他	(<input type="text"/>)

その他

報告書記入日 年 月 日
記入者

かかりつけ薬剤師・薬局に関する調査

－ 集計結果報告 －

別添 5

問1 貴局の経営主体をお選びください。(○は1つ)

	件数	割合
法人	89	85.6%
個人	14	13.5%
無回答	1	1.0%
合計	104	100.0%

問2 同一経営主体（法人が異なっても実質的に同一経営の場合も含む）による薬局店舗数（貴局も含めた店舗数）をご記入ください。

集計数	103
平均値	48.8

問3 貴局の営業業態として該当するものをお選びください。(○は1つ)

	件数	割合
薬局のみ	92	88.5%
薬局とドラッグストア等店舗販売業の併設	12	11.5%
合計	104	100.0%

問4 貴局の立地状況をご記入ください(○は1つ)

	件数	割合
診療所の近隣	59	56.7%
診療所の敷地内	2	1.9%
病院の近隣	6	5.8%
病院の敷地内	0	0.0%
同一ビル内に複数の保険医療機関がある（医療モール）	1	1.0%
同一ビル内に単一の保険医療機関がある	2	1.9%
その他	34	32.7%
合計	104	100.0%

問5 貴局における開局時間についてお伺いします。(それぞれ○は1つ)

① 平日の営業日において午前8時から午後7時までの時間帯に8時間以上連続して開局していますか。

	件数	割合
はい	97	93.3%
いいえ	7	6.7%
合計	104	100.0%

② 土曜日又は日曜日のいずれかの時間帯において4時間以上開局していますか。

	件数	割合
はい	100	96.2%
いいえ	4	3.8%
合計	104	100.0%

問6 貴局では、中心静脈栄養液、抗悪性腫瘍注射薬等の混合調製に関し、無菌製剤処理を行うための施設基準に適合している旨を地方厚生局長に届け出ていますか。

(○は1つ)

	件数	割合
はい	22	21.2%
いいえ	82	78.8%
合計	104	100.0%

《問6-1は、問6で「01はい」とご回答の場合、ご回答ください》

問6-1 無菌製剤室は貴局の施設ですか。それとも別の薬局の無菌調剤室の共同利用を行っていますか。(○は1つ)

	件数	割合
貴局の施設である	9	40.9%
別の薬局の施設の共同利用である	13	59.1%
合計	22	100.0%

問7 貴局では、患者からの相談に応じるための設備上の工夫をしていますか。(あてはまるもの全てに○)

	件数	割合
パーテーションの設置	90	86.5%
カウンター前のイスの設置	55	52.9%
個室の設置	15	14.4%
カウンターと待合スペースの距離を遠くしている	56	53.8%
スピーチプライバシー機器（特殊な音を出すことにより、他人に会話か漏れ聞こえなくする機器）の設置	10	9.6%
その他	2	1.9%
総数	104	

問8 令和4年2月1日現在、貴局で取り扱っている医療用医薬品（うち後発医薬品、医療用麻薬）、要指導医薬品、一般用医薬品の品目数をご記入ください。
 また一般用検査薬、衛生材料、医療機器（医療材料を含む）、介護用品、健康食品、介護食品の取り扱いの有無をご記入ください。
 なお、ドラッグストア等店舗販売業を併設している場合は、ドラッグストア等での取り扱い品目数も加えてご記入ください。

	集計数	平均値
① 医療用医薬品	78	1,521.9
② うち 後発医薬品		600.2
③ うち 医療用麻薬		11.1
④ 要指導医薬品		2.3
⑤ 一般用医薬品		130.9
⑥ 薬局製造販売医薬品		0.6

⑦ 一般用検査薬

	件数	割合
ある	66	63.5%
ない	35	33.7%
無回答	3	2.9%
合計	104	100.0%

⑧ 衛生材料

	件数	割合
ある	96	92.3%
ない	5	4.8%
無回答	3	2.9%
合計	104	100.0%

⑨ 高度管理医療機器

	件数	割合
ある	67	64.4%
ない	33	31.7%
無回答	4	3.8%
合計	104	100.0%

⑩ ⑨以外の医療機器・材料

	件数	割合
ある	77	74.0%
ない	23	22.1%
無回答	4	3.8%
合計	104	100.0%

⑪ 介護用品

	件数	割合
ある	76	73.1%
ない	25	24.0%
無回答	3	2.9%
合計	104	100.0%

⑫ 健康食品

	件数	割合
ある	85	81.7%
ない	15	14.4%
無回答	4	3.8%
合計	104	100.0%

⑬ 介護食品

	件数	割合
ある	55	52.9%
ない	46	44.2%
無回答	3	2.9%
合計	104	100.0%

《問8-1は、問8の「③ うち 医療用麻薬」で「0」品目とご回答の場合、ご回答ください》

問8-1 医療用麻薬を取り扱わない理由をお答えください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
調剤の需要がほとんど無いため	7	77.8%
使用しなかった麻薬を廃棄する場合の経済的損失が大きいため	2	22.2%
麻薬保管庫を置くスペースがないため	1	11.1%
規制が多く管理に手間がかかるため	2	22.2%
麻薬が盗難された場合の責任が重いため	0	0.0%
その他	1	11.1%
総数	9	

《問8-2は、問8の「③ うち 医療用麻薬」で「0」以外の品目数をご回答の場合、ご回答ください》

問8-2 令和4年1月1カ月間における医療用麻薬の調剤回数（応需処方箋枚数）をご記入ください。

集計数	4
平均値	0.0

問9 令和4年1月1カ月間に応需した処方箋枚数、処方箋の集中度（上位3位まで）をご記入ください。

	集計数	平均値	
① 処方箋枚数	90	1,108.5	
② 処方箋集中度		1位	54.6
		2位	9.3
		3位	5.0

問10 令和4年1月1カ月間に応需した処方箋の発行元医療機関数（実数）

集計数	84
平均値	62.6

問11 令和4年1月1カ月間に医療用医薬品を調剤した患者数、そのうち複数医療機関を受診している事を把握している患者数（同一医療機関の複数の診療科を受診している患者も含む）についてご記入ください。

	集計数	平均値
① 1カ月間に医療用医薬品を調剤した来局患者数（実人数）	69	897.2
② ①のうち、複数医療機関を受診している事を把握している患者数（実人数）		204.7

問12 貴局の職員数について職種別、介護支援専門員の資格の有無別にご記入ください。非常勤職員については実人数、常勤換算（小数点以下第1位まで）をご記入ください。また、その他職員のうち介護支援専門員の資格等の有資格者がいる場合には、主な資格の内容についてもご記入ください。

	介護支援専門員の資格の保有	常勤職員	非常勤職員	
			実人数	常勤換算
① 薬剤師	①-1 保有している	0.8	0.2	0.1
	①-2 保有していない	1.8	1.5	1.0
② 登録販売者	②-1 保有している	0.1	0.0	0.0
	②-2 保有していない	0.6	0.2	0.1
③ その他職員		0.3	0.3	0.3
	④ ③のうち、有資格者	0.1		
集計数		88		

問13 貴局における薬剤師の認定等の取得者数（実人数）をご記入ください。

	集計数	平均値
① 認定薬剤師（CPCの認定を受けたもの）	90	1.8
② ①以外の認定・専門薬剤師数		0.4

問14 貴局は健康サポート薬局の届出をしていますか。（〇は1つ）

	件数	割合
はい	10	9.6%
いいえ（今後、届出予定あり）	47	45.2%
いいえ（今後、届出予定なし）	35	33.7%
無回答	12	11.5%
合計	104	100.0%

問15 貴局における健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師数（実人数）

集計数	88
平均値	0.9

＜問15-1は、問15で「0」人とご回答の場合、ご回答ください＞

問15-1 現在、健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師がない理由についてお答えください。（あてはまるもの全てに〇）

	件数	割合
業務が忙しく、薬剤師が研修を受講する時間がないため	18	56.3%
研修を受講する必要性を感じないため	0	0.0%
健康サポート薬局に係る研修の応募者が多く、受講できないため	2	6.3%
薬局として健康サポート薬局の基準を満たすことが困難なため	16	50.0%
その他	1	3.1%
総数	32	

＜問15-2は、問15で「0」人以外にご回答の場合、ご回答ください＞

問15-2 貴局に所属する健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師が、地域ケア会議等の地域の多職種が参加する会議に参加したことがありますか。（〇は1つ）

	件数	割合
はい	43	76.8%
いいえ	11	19.6%
無回答	2	3.6%
合計	56	100.0%

問15-2-1 貴局の健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師が、令和4年1月1カ月間に、地域ケア会議等の地域の多職種が参加する会議に参加した回数をご記入ください。なお、健康サポート薬局研修を修了した複数の薬剤師が同一の会議に参加した場合は、1回として計上してください。

集計数	53
平均値	0.4

問16 貴局では、特定の患者を継続して担当する薬剤師はいますか（「かかりつけ薬剤師指導料」等を算定していない場合も含む。また同意書の有無は問わない）。（〇は1つ）

	件数	割合
いる	84	80.8%
いない	7	6.7%
無回答	13	12.5%
合計	104	100.0%

＜問16-1～問16-4は、問16で「01 いる」とご回答の場合、ご回答ください＞

問16-1 特定の患者を継続して担当する薬剤師は、患者からの選択により決定しますか。

	件数	割合
はい	49	58.3%
いいえ	30	35.7%
その他	4	4.8%
無回答	1	1.2%
合計	84	100.0%

問16-2 特定の患者を継続して担当する薬剤師の人数をお答えください。

	集計数	平均値
① 特定の患者を継続して担当する薬剤師の人数（実人数）	78	1.8
② ①のうち、かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料を算定している薬剤師の人数（実人数）		1.2

問16-3 令和4年2月1日（火）に、かかりつけ薬剤師等が服薬指導をした件数についてご記入ください。

	集計数	平均値
① 算定件数	65	7.1
② 算定していないが、算定要件を満たしたかかりつけ薬剤師が当該患者に指導したもの		5.8
③ 算定要件は満たしていないが、患者が指名した薬剤師が当該患者に指導したもの		1.6

問16-4 貴局の薬剤師が継続して担当している特定の患者について、当該患者が入退院した際の患者情報の授受を、患者が入退院した医療機関との間で行っていますか。（あてはまるもの全てに○）

① 入院時における医療機関への情報提供

	件数	割合
全ての患者について情報提供している	2	2.4%
患者の状態像に応じて情報提供している	16	19.0%
入院する医療機関によって情報提供している	7	8.3%
必要に応じて情報提供している	44	52.4%
医療機関へ情報提供していない	24	28.6%
総数	84	

② 退院時における医療機関からの情報把握

	件数	割合
退院時カンファレンスに参加して患者情報を把握している	8	9.5%
地域の医療機関との間で患者情報を提供してもらうよう取り決めを行っている	4	4.8%
地域の医療機関の主導により患者情報の提供がなされている	27	32.1%
都度、医療機関に患者情報の提供を依頼している	25	29.8%
退院時における医療機関からの情報把握は行っていない	28	33.3%
総数	84	

問17 貴局における患者情報の一元的な把握の範囲について、ご記入ください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
患者がかかっている全ての医療機関を把握するよう取り組んでいる	86	82.7%
患者が服用している全ての医薬品（OTC含む）を把握するよう取り組んでいる	75	72.1%
患者が服用している全ての健康食品、サプリメントを把握するよう取り組んでいる	66	63.5%
患者の病名を把握するよう取り組んでいる	54	51.9%
患者の検査値を把握するよう取り組んでいる	68	65.4%
その他	1	1.0%
該当なし（自局で調剤した医薬品等の情報のみ把握している）	0	0.0%
総数	104	

＜問17-1・問17-2は、問17で「01」～「05」のうち1つでもご回答の場合、ご回答ください＞

問17-1 患者が服用している医薬品に関する情報をどのように収集していますか。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
処方箋へ印字、記載された情報	69	77.5%
お薬手帳へ印字、記載された情報	86	82.7%
医療関係施設からの患者情報の連絡文書	32	30.8%
地域医療情報連携ネットワーク等で導入しているシステム	22	21.2%
患者、家族への質問等	82	78.8%
処方元医療機関への問い合わせ	22	21.2%
その他	1	1.0%
総数	89	

問17-2 問17の取組を行っていて良かったことをお選びください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
重複投薬を防ぐことができた	84	94.4%
相互作用のある薬の飲み合わせを防ぐことができた	73	82.0%
患者の服用する薬が減った	45	50.6%
上記以外で疑義照会につながった	48	53.9%
次の処方内容が変更になった	43	48.3%
患者のアドヒアランスの向上につながった	42	47.2%
その他	3	3.4%
特に良かったことはない	0	0.0%
総数	89	

問18 貴局での患者情報の継続的な把握方法についてお選びください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
患者が来局した時に、前回来局してからの服薬状況や体調の変化についてフォローアップを行っている	78	75.0%
患者に服薬指導をした後、電話等で連絡をするなど、フォローアップを行っている	47	45.2%
患者の退院時に、入院していた医療機関から、患者情報を受け取っている	15	14.4%
その他	1	1.0%
該当なし	3	2.9%
総数	104	

「問18-1～問18-2は、問18で「01」～「04」のうち1つでもご回答の場合、ご回答ください」

問18-1 令和4年2月1日（火）において、診療報酬の算定を問わず、フォローアップを行った患者数をご記入ください。

	集計数	平均値
① フォローアップを行った患者数（実人数）	75	17.2
② ①のうち、副作用を発見した患者数（実人数）		0.3
③ ②のうち、経過改善が見られた患者数（実人数）		0.8
④ ①のうち、残薬を発見した患者数（実人数）		1.3
⑤ ④のうち、経過改善が見られた患者数（実人数）		0.5
⑥ ①のうち、服薬に関する再指導を実施した患者数（実人数）		3.1
⑦ ⑥のうち、経過改善が見られた患者数（実人数）		2.2
⑧ ①のうち、得られた情報を処方医等にフィードバックした患者数（実人数）		0.6
⑨ ⑧のうち、情報提供書等を用いて処方医に情報提供を行った患者数（実人数）		0.8
⑩ ⑧のうち、処方医に処方提案を行った患者数（実人数）		0.2
⑪ ⑧のうち、次の処方内容の変更に至った患者数（実人数）		0.3
⑫ ⑧のうち、処方医以外の他職種に情報提供を行った患者数（実人数）		0.1

問18-2 貴局でフォローアップを行っている患者の主たる疾患をお選びください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
がん	42	50.6%
糖尿病	54	65.1%
高血圧症	38	45.8%
喘息	39	47.0%
精神疾患	25	30.1%
慢性疼痛	19	22.9%
神経障害性疼痛	19	22.9%
認知症	37	44.6%
該当なし	12	14.5%
総数	83	

問19 貴局では電子版お薬手帳を導入していますか。（○は1つ）

	件数	割合
導入している	71	68.3%
導入していない	18	17.3%
無回答	15	14.4%
合計	104	100.0%

「問19-1は、問19で「02 導入していない」とご回答の場合、ご回答ください」

問19-1 電子版お薬手帳を導入していない理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
導入費用の負担が大きいため	4	22.2%
運用費用の負担が大きいため	4	22.2%
必要性を感じていないため	4	22.2%
希望する患者がいないため	4	22.2%
システムを設置するスペースがないため	1	5.6%
導入を検討したことがないため	1	5.6%
その他	6	33.3%
総数	18	

問20 令和4年1月1カ月間において、電子版お薬手帳を持参した患者数について、応需した処方箋枚数ベースでお答えください。

集計数	73
平均値	27.9

問21 貴局では薬歴管理の電子化を行っていますか。（○は1つ）

	件数	割合
行っている	84	80.8%
行っていない	5	4.8%
無回答	15	14.4%
合計	104	100.0%

問22 電子版お薬手帳や電子薬歴システムを使用することにより、紙のお薬手帳や紙の薬歴を使用する場合と比べて、どのようなメリットがあると感じていますか。

(あてはまるもの全てに○)

【電子版お薬手帳】

	件数	割合
患者の同意のもと他職種に対して患者情報の提供を円滑に行えること	16	15.4%
体重、血糖値などのデータを経時的に把握しやすいこと	7	6.7%
患者の服薬結果を確認しやすいこと	11	10.6%
電子版お薬手帳における薬の飲み忘れ防止機能により、患者の飲み忘れが減ったこと	10	9.6%
医療情報が電子化されることにより、患者の待ち時間が短縮されること	13	12.5%
その他	6	5.8%
メリットは特に感じていない	22	21.2%
総数	104	

【電子薬歴システム】

	件数	割合
患者の同意のもと他職種に対して患者情報の提供を円滑に行えること	38	36.5%
体重、血糖値などのデータを経時的に把握しやすいこと	66	63.5%
患者の服薬結果を確認しやすいこと	65	62.5%
電子版お薬手帳における薬の飲み忘れ防止機能により、患者の飲み忘れが減ったこと	6	5.8%
医療情報が電子化されることにより、患者の待ち時間が短縮されること	42	40.4%
その他	8	7.7%
メリットは特に感じていない	5	4.8%
総数	104	

問23 令和4年2月1日（火）における開局時間外の電話相談件数をご記入ください。

(同一の患者から短時間に複数回、電話がかかってきた場合にも、別の件数として計上してください)

	集計数	平均値	
		夜間	閉局日
① 開局時間外の電話相談件数	81	0.7	0.6
② ①のうち、かかりつけ薬剤師が対応した件数（報酬を算定していないものも含む）		0.2	0.1
③ ①のうち、小児に関連する相談件数		0.2	0.1
④ ①のうち、在宅業務に関連する相談件数		0.1	0.0

問24 貴局での開局時間外の調剤応需の状況についてお選びください。(あてはまるもの全てに○)

	件数	割合
患者ごとに担当の薬剤師が対応している	7	6.7%
患者ごとの担当の薬剤師が対応するのではなく、薬局として対応している	78	75.0%
他の薬局などと協力し、当番制などで対応し、服薬指導の内容などを共有している	7	6.7%
他の薬局などと協力し、当番制などで対応しているが、服薬指導の内容などは共有していない	11	10.6%
その他	0	0.0%
該当なし（上記の取組を行っていない）	2	1.9%
総数	104	

《問24-1は、問24で「01」～「05」のうち1つでもご回答の場合、ご回答ください》

問24-1 令和4年1月1カ月間における開局時間外の調剤件数（患者の求めに応じ、通常の開局時間外に調剤した件数）について、ご記入ください。

	集計数	平均値	
		夜間	閉局日
開局時間外に応需し、調剤した件数	80	6.0	3.8

問25 貴局では在宅業務を行っていますか。(○は1つ)

	件数	割合
行っている	78	75.0%
行っていない	9	8.7%
無回答	17	16.3%
合計	104	100.0%

《問25-1～問25-3は、問25で「01 行っている」とご回答の場合、ご回答ください》

問25-1 在宅業務を行ったきっかけについてお選びください。(あてはまるもの全てに○)

	件数	割合
患者からの要望があった	47	60.3%
医師からの要望があった	57	73.1%
介護支援専門員、看護師など医師以外の職種からの要望があった	63	80.8%
地域ケア会議等で要望があった	6	7.7%
外部からの要望はなかったが貴局内で在宅業務を行うことを決定した	18	23.1%
その他	1	1.3%
総数	78	

問25-2 問25-1の選択肢「01」～「06」のうち、在宅業務を行ったきっかけとして最もあてはまる番号を1つご記入ください。

	件数	割合
患者からの要望があった	10	12.8%
医師からの要望があった	24	30.8%
介護支援専門員、看護師など医師以外の職種からの要望があった	27	34.6%
地域ケア会議等で要望があった	0	0.0%
外部からの要望はなかったが貴局内で在宅業務を行うことを決定した	6	7.7%
その他	0	0.0%
無回答	11	14.1%
合計	78	100.0%

問25-3 令和4年1月1カ月間における在宅業務の実施状況についてご記入ください。

① 一般住宅

	集計数	平均値
訪問建物数（延べ数）		6.1
訪問患者数（延べ数）	72	7.0
訪問1回当たりの平均往復移動時間（分）		17.8
訪問1回当たりの平均指導時間（分）		20.8

② 居住系施設

	集計数	平均値
訪問建物数（延べ数）		2.3
訪問患者数（延べ数）	32	46.0
訪問1回当たりの平均往復移動時間（分）		24.0
訪問1回当たりの平均指導時間（分）		32.8

◀問25-4は、問25で「02 行っていない」とご回答の場合、ご回答ください▶

問25-4 在宅業務を行っていない理由についてお選びください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
薬剤師の人員不足のため	3	33.3%
在宅業務を行うための費用（人件費・設備費等）が経営上、大きな負担であるため	0	0.0%
薬剤師が高齢であり体力的な問題があるため	0	0.0%
在宅業務の経験・知識がなく、対応方法がわからないため	0	0.0%
患者や医師などに確認したが、必要性がなかったため	4	44.4%
患者や医師などに確認はしていないが、必要性を感じていないため	1	11.1%
その他	2	22.2%
総数	9	

問26 貴局ではオンライン服薬指導を行っていますか。（○は1つ）

	件数	割合
行っている	18	17.3%
行っていない	68	65.4%
無回答	18	17.3%
合計	104	100.0%

◀問26-1は、問26で「01 行っている」とご回答の場合、ご回答ください▶

問26-1 オンライン服薬指導を行ったきっかけについて、ご記入ください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
患者からの要望があった	6	33.3%
医師からの要望があった	7	38.9%
介護支援専門員、看護師など医師以外の職種からの要望があった	1	5.6%
地域ケア会議等で要望があった	0	0.0%
外部からの要望はなかったが貴局内でオンライン服薬指導を行うことを決定した	8	44.4%
その他	3	16.7%
総数	18	

問27 令和4年1月1カ月間における処方元医療機関への疑義照会の状況についてご記入ください。

	集計数	平均値
① 処方元医療機関への疑義照会件数		34.9
② ①のうち、処方提案（薬剤選択、投与量、投与方法、投与期間等を医師に提案すること）を行った件数	82	12.4
③ ①のうち、小児に関連する相談件数		1.7

問28 地域医療情報連携ネットワーク（患者の同意のもと、診療情報などを地域の医療機関・薬局で共有するネットワーク）に参加し、患者情報の共有等による薬学的管理の向上に取り組んでいますか。（○は1つ）

	件数	割合
取り組んでいる	41	39.4%
薬局が参加可能な地域医療情報連携ネットワークがあるが、取り組んでいない	26	25.0%
薬局が参加可能な地域医療情報連携ネットワークがないため、取り組んでいない	15	14.4%
薬局が参加可能な地域医療情報連携ネットワークがあるか否かを把握していない	5	4.8%
無回答	17	16.3%
合計	104	100.0%

問29 貴局では、医療機関の医師又は薬剤部や地域医療連携室等との連携により、入退院時カンファレンスへの参加や入退院時の情報を共有する体制がありますか。

	件数	割合
ある	47	45.2%
ない	42	40.4%
無回答	15	14.4%
合計	104	100.0%

◀問29-1は、問29で「01 ある」とご回答の場合、ご回答ください▶

問29-1 令和4年1月1カ月間に、問29に示す医療機関の医師又は薬剤部や地域医療連携室等との連携により、入退院時カンファレンスへの参加や入退院時の情報を共有した回数をご回答ください。

集計数	45
平均値	0.8

問30 貴局では、薬局の利用者からの健康に関する相談に適切に対応し、そのやり取りを通じて、必要に応じ医療機関への受診勧奨を行う際に、利用者の同意を得た上で、当該利用者の情報等を文書により医療機関（医師）に提供する体制がありますか。

	件数	割合
ある	63	60.6%
ない	19	18.3%
無回答	22	21.2%
合計	104	100.0%

◀問30-1は、問30で「01 ある」とご回答の場合、ご回答ください▶

問30-1 令和4年1月1カ月間に、問30に示す受診勧奨を行う際に、利用者の同意を得た上で、当該利用者の情報等を文書により医療機関（医師）に提供した回数をご回答ください。

集計数	61
平均値	1.2

問31 貴局では、患者の同意を得た上で、患者の服薬状況等を服薬情報等提供料に係る情報提供書等の文書により、医療機関（医師）に提供したことがありますか。なお、服薬情報等提供料の算定有無にかかわらずご回答ください。

	件数	割合
ある	68	65.4%
ない	16	15.4%
無回答	20	19.2%
合計	104	100.0%

◀問31-1は、問31で「01 ある」とご回答の場合、ご回答ください▶

問31-1 令和4年2月1日（火）に、患者の同意を得た上で、患者の服薬状況等を服薬情報等提供料に係る情報提供書等の文書により、医療機関（医師）に提供した回数をご記入ください。なお、服薬情報等提供料の算定有無にかかわらずご計上ください。

集計数	66
平均値	2.7

◀問31-2は、問31で「02 ない」とご回答の場合、ご回答ください▶

問31-2 医療機関（医師に対して患者の服薬情報等を示す文書を提供していない理由をお選びください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
医師からの求めがないため	10	62.5%
文書を提供しても医師が必要としないと思うため	0	0.0%
文書を作成・提供することに手間がかかるため	3	18.8%
文書以外の手段（地域医療情報ネットワーク、口頭、電話等）で情報提供しているため	7	43.8%
患者の服薬情報等を提供すること自体に意義を感じていないため	0	0.0%
医師に情報提供できるほど、患者の服薬情報等を把握していないため	0	0.0%
患者の同意を得ることができなかったため	1	6.3%
その他	1	6.3%
総数	16	

問32 貴局における他職種との連携（医療機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション等との連携）の具体的方法・内容について、ご記入ください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
他職種が質の向上を図るための研修会の開催・参加	47	45.2%
地域ケア会議等における検討・情報共有	42	40.4%
地域ケア会議以外の会合における検討・情報共有	16	15.4%
地域の医療機関・介護施設等の連絡先をリスト化して、地域で共有している	16	15.4%
近隣の医療機関・介護施設等と都度、連絡を取り合っている	49	47.1%
医師の在宅訪問への同行	11	10.6%
その他	1	1.0%
該当なし（他職種と連携していない）	7	6.7%
総数	104	

問33 他の薬局をかかりつけにしている患者が来局した際に得られた服薬情報等を、その患者のかかりつけ薬局へ情報提供していますか。

	件数	割合
行っている	36	34.6%
行っていない	51	49.0%
無回答	17	16.3%
合計	104	100.0%

《問33-1は、問33で「01 行っている」とご回答の場合、ご回答ください》

問33-1 具体的な情報提供方法についてお答えください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
お薬手帳（紙・電子版のいずれも）への記入・シールの貼付	30	83.3%
電話による直接的な情報共有	13	36.1%
電子メール・FAXによる情報共有	3	8.3%
地域医療情報連携ネットワークを通じた情報共有	3	8.3%
その他	0	0.0%
総数	36	

問34 貴局において実施している、地域での活動についてご記入ください。（あてはまるもの全てに○）

	件数	割合
地域ケア会議への参加	48	46.2%
地域住民向けの講演やお薬相談会などの実施	38	36.5%
学校等における薬物乱用防止や薬の使用法などに関する講演の実施	30	28.8%
その他の学校薬剤師としての活動	40	38.5%
その他	12	11.5%
実施していない	6	5.8%
総数	104	

問35 貴局では、これまで副作用等の報告を医薬品医療機器総合機構（PMDA）へ行ったことがありますか。（○は1つ）

	件数	割合
はい	48	46.2%
いいえ	35	33.7%
わからない	4	3.8%
無回答	17	16.3%
合計	104	100.0%

《問35-1は、問35で「01 はい」とご回答の場合、ご回答ください》

問35-1 貴局における令和4年1月1カ月間の副作用等の報告を実施した延べ件数をご記入ください。

集計数	47
平均値	0.8

問36 貴局では、薬局医療安全対策推進事業における 薬局 ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業（本設問では「当該事業」と表す）の「参加薬局」として登録を行っていますか。（○は1つ）

	件数	割合
はい	78	75.0%
いいえ（当該事業を知っている）	6	5.8%
わからない（当該事業を知らない）	1	1.0%
無回答	19	18.3%
合計	104	100.0%

《問36-1は、問36で「01 はい」とご回答の場合、ご回答ください》

問36-1 貴局では、令和4年1月1カ月間に、疑義照会により処方変更がなされた結果、患者の健康被害や医師の意図した薬効が得られないことを防止するに至った事例をヒヤリ・ハット事例として報告していますか。

	件数	割合
行っている	33	42.3%
行っていない	45	57.7%
合計	78	100.0%

問37 貴局では、問36で回答いただいた薬局医療安全対策推進事業におけるヒヤリ・ハット事例収集・分析事業以外にプレアポイド事例に関して把握・収集する取組を行っていますか。（〇は1つ）

	件数	割合
行っている	71	68.3%
行っていない	16	15.4%
無回答	17	16.3%
合計	104	100.0%

問38 貴局では、プロトコルに基づいた薬物治療管理（PBPM）の取組を行っていますか。（〇は1つ）

	件数	割合
行っている	4	3.8%
行っていない	84	80.8%
無回答	16	15.4%
合計	104	100.0%

問39 令和4年1月1カ月間に、処方箋に併記する形などで患者の検査値や疾患名等の情報を医療機関から受け取った上で服薬指導を行った件数を、処方箋枚数ベースでお答えください。

	集計数	平均値
① 検査値	72	18.2
② 疾患名		5.9
③ その他		0.5

問40 貴局では、患者自身で健康増進や健康維持に対する関心を高めてもらうことを目的として、患者に対しどのような働きかけを行っていますか。（あてはまるもの全てに〇）

	件数	割合
薬剤師が主導して健康増進や健康維持に関する問いかけ・指導を行っている	54	51.9%
患者からの要望に応じて健康増進や健康維持に関する指導やそれらの内容が記載された資料の提供を行っている	56	53.8%
薬局内にある機器を使用して血圧や血糖値を測定することを勧めている	34	32.7%
貴局単独で開催する患者の健康相談会・健康セミナーへの参加を勧めている	12	11.5%
地域で他の主体が開催する健康相談会・健康セミナー・健康維持に役立つ運動教室やサークル等について情報提供や参加を勧めている	25	24.0%
その他	3	2.9%
意識的に何らかの働きかけは行っていない	7	6.7%
総数	104	

問41 薬局業務の生産性向上を目的として実施している事についてお教えてください。（あてはまるもの全てに〇）

	件数	割合
ICTシステムの導入	59	56.7%
地域医療情報連携ネットワークへの参加	32	30.8%
薬局業務改善のためのコンサルタント導入	19	18.3%
法人本部から助言を得る	20	19.2%
地域薬剤師会への加入	73	70.2%
地域他薬局との業務提携	12	11.5%
地域他薬局との協力（業務提携以外）	28	26.9%
薬局機能の専門化（例：在宅業務、高度薬学管理業務等に特化）	8	7.7%
薬剤師を多く雇用する	21	20.2%
薬剤師の患者担当制の導入	1	1.0%
薬剤師の担当制（調剤、在宅等）の導入	7	6.7%
同一法人内薬局間における人事異動を減らす	16	15.4%
その他	2	1.9%
総数	104	

【「ICTシステムの導入」回答者の具体的なICTシステム】

	件数	割合
電子薬歴システムの導入	57	96.6%
電子版お薬手帳の導入	44	74.6%
自動分包機の導入	46	78.0%
医薬品自動発注システムの導入	29	49.2%
薬剤師と患者とのコミュニケーションを円滑化するツール（チャット、スマホアプリ等）	11	18.6%
在庫管理システムの導入	45	76.3%
調剤監査システムの導入	40	67.8%
その他	2	3.4%
総数	59	

問42 患者に服薬について深く理解してもらうことを目的として、服薬指導を効果的に行うために必要に応じ実施している事項をお教えてください。

(あてはまるもの全てに○)

	件数	割合
調剤した薬剤の服薬について患者がある程度理解していることを確認するまで、何度でも説明する	64	61.5%
調剤内容と直接的に関わりのない会話なども交え、患者の関心を高める	72	69.2%
薬を飲まなかった場合の健康悪化など懸念される事項について説明し、患者の関心を高める	65	62.5%
過去に薬を飲み続けたことで検査値が維持・改善していることをデータで示し、患者の関心を高める	40	38.5%
薬剤に関する資料を使用して説明する	58	55.8%
服薬指導を効果的に行うためのマニュアルを作成して活用している	2	1.9%
プライバシーに配慮するためのパーテーションを設置している	53	51.0%
患者家族にも同席してもらっている	21	20.2%
その他	2	1.9%
上記事項は特に行っていない	1	1.0%
総数	104	